



中村俊定文庫  
文庫 18  
36  
4





誦諧文句帳題目録

冬部

|    |     |    |   |    |     |
|----|-----|----|---|----|-----|
| 雜冬 | 綱代  | 寒草 | 衆 | 冬  | 初冬  |
|    | 炉火  | 冰  | 寒 | 冬  | 時   |
|    | 水仙花 | 水鳥 | 衆 | 早梅 | 落葉  |
|    | 翠葉  | 雪  | 雪 | 冬月 | 枇杷花 |



誹諧教句帳

冬

初冬

夫乃つらも十月めようむふきの  
ふれ内は初立をするふきの  
あふくくらやあふく人初を月  
名しおひくふやふふにうむえ知  
先りばあひまはかきなはきん小真徳

志も月乃あふよ付てやふふ月日  
誰もあふの子れ餅やあふ月日  
あふくもくこれあふ風乃初を月  
あふあふ乃あふあふひん初  
あふ乃初此あふあふあふ  
あふあふあふあふあふあふ  
あふあふあふあふあふあふ  
あふあふあふあふあふあふ

陽治乃付

茶師堂の餅やある非正月唯雪  
小玉の振花をんく  
根のうら枝よ二とふ久りむ 友友  
誓文もそくつたれ非を月 尚垂

時取

時取の政や家れ近きやけ  
むりしく時取やそめ 猿れ尻 一正

十月一日時取のうきれし

まよとまを煉とちおとの口くれは 貞徳  
是こやまのちや時取れ先も一と日  
まほくふをこやうと尾とゆお時取日  
山姥の床や志くれの山あくり日

六条道場中へ

時字寺れ時取乃亭やおあちとり日  
もつや祐さうん志くれの板もる日

雲乃浪の川とほらる村時多留次  
松笠おえとのう陸れむ時多吉貞  
口切よ阿ぬを志くぬ吉茶うか徳元  
山寺とあくらくくを阿ぬか重頼  
是くやよ冬いきく山くれ小親を  
ぬきくくを志をきく山阿ぬか幸和

或古交よぬわらへ

福道まうしてよるの阿ぬ乃鎮守か同

川内くよ出くくくつかハ阿ぬうを政立  
ひくぬ進いきぬ等山乃阿ぬ外相を  
乃雲乃政をひます阿ぬか宗祐  
西東よ南とれてや山阿ぬ政公  
おころこの阿ぬや天乃系ん厚定

落葉

木の葉おちれ志くく風や大天狗

ありくは時をよそくするはれも  
 めきくと落葉はなをりて月 貞徳  
 冬らしぬるもや風りゆるし又日  
 ちりあはいうい糸の柳 玉の露も日  
 山後よ皆をきするはれも日  
 亦く乃きふたり穴られや首は度 又定  
 亦のきふとや若れ衣乃よりこみ 利法  
 亦のきふ衣をふりて冬もきそのか 可一

毛纏うらり敷山の八重にきふ 貞徳

栴尾乃山ちあきく

山にてもめのきふやあはゆゆの時友 意形  
 石きふらるふい地倉ふの小袖ふ 志親  
 衣きふおの衣きふをよれ 福まさふ 宗重  
 花のいこい衣きふのこ乃神を月 幸和  
 紅きふらるふかりけちけりる丸山 日  
 雨さのきふのきふい山れ小袖ふを 同心

赤土よりうら紅き女のちりり乃山 宗留  
猿と尺一木の葉をほりす山下風 親を  
山風さうきいせふちあめのもか 日

松村監物主君に死別して

志しむに世こそは恨をせし

共進善よといはる申ぬ

人なりきれし

ちりりさうきいせふちあめのもか 宗留 日

庭前乃栢樹子ちりりなみちる一村

枇杷花

枇杷乃む実一面よりりりり  
蛸丸やふのよよむとも枇杷乃む 花

茶花

はるあを先人依衣茶の花香外 正五

下ノ 六十五  
夢のむね白ひもぬくつきの内 三直

冬枯

冬ふくく木庵んよまれば花んん  
冬枯かかんー入る枯る部ー成あ  
冬枯くちるおあーねの玉枯 幸和

早梅

梓うらちるはもまこめ梅小

朔旦乃冬玉よ

雪ふりて花やまゝんん梅 歌を  
乃月よんせんや咲花乃兄 三直  
冬枯ハ季ちるいもよー梅 末直

冬月

月よ何れんんさえめたる村阿多 貞徳



六十一  
あつたかゝるそ月れ氷もち日  
きりし志くもやあるもち月換 何音  
そつらやうま ねんうけ 長吉  
かろ男は許してやうそ月 堅結  
ともそもよき 朧月れ走る水 友吉  
雪れあよ出る月や白粉すゝ 政公  
面白く又たのろろ 月と雪一村

五歌

はなぬ種ひくくゆとふ志かゝり 貞徳  
なごにあも祢てあて 釣糸服を 日  
せげいん朝ととも志く 川糸河糸 日  
や糸風をとおんや 糸れねおくり 日  
生鳥よ皆塔をるや 糸朝乃糸 日  
白くちん糸やうらまの 珠砂 糸乳  
糸れ並ね乃 糸糸や糸れ針 可徳

鴻をうけておれりともなる生のみを親を  
うけつきの御志わさつおれり日  
清さるいおれり綱乃いりて親を  
よき日や御よおれりら立 吉久  
橋くお根はさをするおれり日  
冬ハ羽乃おれりらぬらほし 幸和

廻文

しらおれりらぬらほし 幸和

石すをほりて川をわたり 宗孝  
きさおれりらぬらほし 杖 松吉  
おれりらぬらほし 宗富  
目よいりてのまれおれり 宗富  
流乃川舟おれり

おれりらぬらほし 宗富  
江川おれり  
くもつおれりらぬらほし 宗富

雲

雲の成りよあるやほしめ見れば酒  
 危のもしはつむりをする雲くれ  
 くくも酒はく折よある見れば 貞徳  
 はあつらに衣はうするもそれ小敷を  
 天水の雲やあつ酒見れば酒 氏を  
 つの月乃折や見ればの酒はや 西を  
 せうく雲はあつ折よそれやにう酒 政公

あはこ乃くくつとて

とは折やさくんとあるれ而一村  
 見ればあり馬もげあけ此鞠子の月  
 まげもあつぬもそれや二日酔 日

霞

茶の海よりあつるよよもあつるあ  
 玉よりも酒よあるよあつるあ 貞徳

氣乃葉丸一して少くも葉外日  
少くもんくもあられめやよ命日  
守としてや葉外酒を吹せう志やう 長継

字活少く

葉外乃解乃芝や報するふこ 長徳  
本の葉外あつては天狗磔をな親を  
葉外くも乃羽くしや玉管甲日  
鉄炮をく河や玉管外玉葉外日

あつて乃目のむとちる葉外日  
はくくや音する珠敷乃玉葉外 長者  
少くも乃肩やあつては玉たすく 無之  
門口くくくくくくくく 知親  
少くも乃志外玉よとるあつては 幸和  
葉外あつて乃あつては葉外 幸和  
餅をたまりくくくくく 幸和日  
少くも乃耳よとるあつては 幸和日

虚

佛志やりり擦の上此玉あり是  
虚庭よまきーあはれ白砂  
虚元よりあや放下此玉  
あはれーえあはれ  
くすやをも玉友とるはあはれか一村

雨司

あくりも報落されやねり

ふや内乃いひりなれや  
あはれ万ふあはれ白  
白砂乃花やあはれ  
あはれとあはれり  
あはれやゆきあはれ  
あはれをあはれ  
あはれあはれ  
あはれあはれ

音赤やほちうまれ花のさ  
音にましく神志いもせず京より  
音んことたまれんやまら狐  
もらちんまをける木履ふ行隆  
餅ぢをくりんまのまき木小貞徳  
よえあめいふとゆきの日  
初音につきて口まきる白糸うま日  
初音を人ふぬまやと朝れ音日

富士た<sup>か</sup>らおまゆる音れ山日  
すりてい今音ころまうい日  
音おまの竹をいふせ藪くは日  
感れも道理え音う作り花日  
山娘のこま音をく川き日  
西河の流を<sup>行</sup>乃時  
河の流ぬい<sup>い</sup>とちへ音御日  
九音もかこひ<sup>い</sup>音れ一音外徳元

きーぬり祿酒やみり六乃む月  
初言と是もささやあきささる日  
昔よあつてあり言さるる手胡日  
おくれのち道くよー始乃杖日  
あはるるる行とて

はさるるあさやあろん見れ後山日  
燈ふもすけも白ー富さ言日  
言さるるーさや白胞衣富さ言日

武蔵野の言ころさー富さ言日  
ささるる言に言さささき綿 初心  
おぼや花笠とるん々朝れ言 一  
言にぬりむ竹やらささるる本綿引 永代  
白路のよさるる言れ一九け 建城  
我友を言さるるやんすさ路 夫真言  
山灰やまのれさ言さー言れ山 西秋  
踏らるる人乃こひんよさるる建言 糸正

少りかゝるちや着乃粉よーれ山を友  
山乃こゝ三國一期少ーの言日  
よ少ーせやまよ竹とち乃を好む言 氏を

打丹州

はましをすむじんまの粉言成休甫  
言もとせうー少りを志す言外日  
是さぬうちよおうむや言佛ーを礼  
面白し是やまうーえう竹の言一は

左の行

佐保路ちかひいちちちちいし日

山山あ

ちた尺よ是も走るぬら響の言長吉  
美もろくして餅言かあくらよ日  
はお家乃肩よかひやけさの言日

山山入行

富士山い言てせらきさる根うを



雪はふと天れあはるは人おま日  
もらきや木の葉にほむさし日  
あきい京あしういんやこ日  
降きや雲乃衣れぬさし日  
ひゆる木の山神や雲もきれ下京  
きしうよはひうあまやねつあし日  
こしよおらぬやまき神乃日  
ありあひちうさるしえ丁銀花日

うす雪い銀さ地や鞠る山え故  
あまきい百葉やほめつらぬ内  
新月さうれほつとらん海雲日  
山乃きさくく川しる日は日  
玉露ふ竹の子登れされ日  
あうくかう山乃あはほれきれ日  
あきさくしんけねの茶せん日  
おし影をるんせよ芭蕉れきおん日

楨の多や白犬と云ふをれ山日

醫師乃無行よ

風乃の脈とて志るを字外日

追善り

亦とれれく十方もるや吾れ道日

也とてや皆一同よんれちり終日

菊も川香におも為よ小付外 字留

多菊乃白ひさぬすの吾れ花 日

うすき山肩作る希志やうう外 故也

也よりやもんこよるれとけくわ吾 松吾

松本をもかさるや吾れむけりり 吾久

ぬよめ肩毛も白 吾れ申 日

おりろく松本も花やけくわ吾 三也

そよめもかひい 吾れ地白外 日

大吾もやかくれ装か 吾れ笠 日

少吾もに志るもを足すもめら外 字留





氷

るもちて川はらまゝの氷は  
 川はら千枝をりけこりけ  
 あらわれも氷さぬうらみの内  
 植はよまゝしげまゝまゝいけ  
 山乃ともまゝまゝまゝまゝ  
 水のあやらまゝまゝまゝ  
 程まゝして狐川まゝまゝ

氷晶てあゝする池乃氷ヶ那

魚乃ぬめ糖乃喉まむるまゝ子 貞徳

餌より水の道まゝまゝまゝ

附乃すむ池いこゝまゝのあゝまゝ

天升をまて後唐藏せりはる死りや池乃魚目

むすまゝの乃まゝを珠敷れまゝ

騰りむ海まやまゝ乃うまゝまゝ

氷桶まゝのまゝまゝ砂糖うまゝ

波乃あやほくけりるれあなる月  
うすくくくくくくく水やあ餅 とき友  
きえとんくくく乃ほくくく鬼丸 川程  
浪乃つんくくくくく氷うか 造一  
まえくくくくく氷か 作り 和活  
わき鍋くくくくくくく胡あり 正尹  
めくく海くくくくくくく 高直  
水あきくく

為氷上子よすくや砥石川 徳元

志賀くく

は浪をとらてい志賀はわりの日  
をのりなれぬあやとくくく 船日

鞆くく

山名と乃ほくくや利劍不動板 徳  
櫻路をさげくく乃ほくく 出和  
川ほくく乃浪は志ハのを氷く 永佐

左良あし

猿作のつけよえされやあし附 亭

鼓乃游あし

こゝろあし鼓乃游れ福川なる唯者

遊池いふよく水乃あし沙 鼓を

遊乃系をまむすひよするあし日

浪いなりあし急すこゝろあし日

石等とるすや 硯乃胡あし日

池よるあし魚乃月うすく 西遊

あ乃あやまのあしあくる水乃 氏を

川いあしあし波乃鼓あし 重に

といはよ一板白髪あしあし 重に

雪餅もそのまゝ氷あしあし 三遊

池乃あし銀盤とる氷乃那 重に

遊の水あしあしあしあしあし 日

水あしあしあしあしあしあし 日

あゝ川乃浪や沙乃ころりつゝこ 返公

い懐少く

あな沙をもちてや物を山を流す水 忠海  
尺八の仙なるはししれおるはし 道重

湯治せし時

多かりんをる沙をゆて湯外 良吉  
新に玉をよしれおるはし 日

水色

あゝるつこをとも又きくおけり  
おきと思ひつゝふらふらと  
池をこしてはり屋よは鴨居外  
青砂さへ人乃目さぬそふき

東市に訪ふ

唐子池乃きもをいあはれか 自徳  
都あつてもる汗やふき足 日



鶯鶯乃ぬすはまきりしり厚沙 歌を  
町らよりとぬあうりり西風 日  
とあああひよりひさしり友子智歌ら  
水鳥れしひや海乃るをき川 徳元  
淡路りし通しや浪るるを歌け 日  
自從り先鴨あまはしちちり 巻

角田川あし

京よ田舎おふらふあや都一鳥 日

水鳥乃ししひつ是しをぬき人 宗徳  
芦鴨いまはあはれ節乃福よりか 伝音  
あやひあかそりの料理か 志友  
鶯鶯乃るそ福う池乃ひひりり 日  
鶯鶯れ羽わけいあはれ食か 日  
浪乃あやをぬちり鴨し物か 幸和  
あしへいさしり通しりあまの上 日  
あしししし梅をさしりあやうはり 日

志く入る浪乃敷よちとりかけ日

播磨岡ふく

将をかののけしきまよりん友のらふ宗年  
むく草乃わわや登れま念衣 長徳  
らし級よふをを乃小神分 長若  
海ちうきゆへう千をれ硯箱 日  
長命乃くすうとやあらん物乃け ねる  
名よありくふんつきとそ友ちうり 時久

ひやうしなやあしよまんとおのる 昔久  
ま海くろをふむくふまぬりふをる 日  
水乃乃極多にるるはをこる 堂一  
ふをいこう級をれや浪たのや 思一  
海氷ふむいあな 子をる 久 久英

初巻

初巻より今巻する 脈やゆめを 叙を

追ゆくやさのふく。は乃磨れを日  
といふるの移場乃をれ。第外成を  
第磨るいとをれ。竹の枝を日  
飛をやおえれ。通る磨る家。望

綱代

かいつかり綱代よ。浪やまのり。幸和

奥衣系合よ

衣川や鍾りのある。ろれ。をれ  
水乃のふとく。入よする。綱代。か。宗富

炉火

あゝんとたたく。金やあけ。ころ。親を  
切火乃きえ。あやう。あや。け。田。炭。日  
火を。け。て。ゆ。る。よ。も。足。や。あ。け。こ。ろ。幸。和  
孫。あ。つ。て。い。い。嬉。う。火。お。け。か。日

空しくてふゆりれ 並火りか 花  
ふやうくんきうあまのたうこう 由之  
並火も皆せう 花乃志りまひ 花次  
きまぬあふりに火をお連こう 二並  
科乃ちきんもあふり火をくらひ 花を  
とのたうあふりこう乃子さか 宗朋

水仙花

花をかくる智にそ 為すいせん花 秋を  
葛乃粉て風く 水仙の花もつち 宗昌  
又ぬふれ吉野葛とやすいせん花 長運  
ひやけて冬もくらす 水仙花 貞徳  
おすきと 作もをいせん花とんか 為三

年回立書

花は田(か)いむきれ日あ 水 照星



22  
昔乃長ふる面や鬼あゝひ 曰  
この矢的乃射あけを女言 親並  
りゆれ矢はきよははく指はし 利法  
さるくもまゝこゝんまはまの心 宗祐  
まきこくも鷹乃紙の志いそゝる 邦彦  
けしゆくはたすよるやむは果 一の橋  
昔乃よ口もくふらゝれ 長吉  
さいごんやんくもまゝのひは書 長吉

雑冬

2  
羽箒は実と灰とりは羽のひは  
酒のめい新乃志いもやひらめん  
言子乃餅のまゝとて  
食よせば志いもやらん言な餅  
ありはくや當るは家よ方の餅 長吉  
笠帯よははに切壺は掃地うか 貞徳  
冬こもる毛けしはもあまうこ 曰

或人冬乃何多とある題  
を出されきれた

何多し冬乃中一日  
僧正谷れ天物やくは炭徳元  
白す見いすを路乃も一日

あはひりるへ行と

すまらや葉并よいて開かる日  
次はぬそ酒やおはひりる中一日

下りゆく春よ見よまの暦れ日  
大坂の松風をよも乃時日  
あはひりるよまの春可  
かや葉や新乃よまの珠数く  
おくて葉をよまの春可  
こきへておされれれよまの  
とまぬるおや出入息佛一日  
冬きよかん竹をよまの春可  
時久

あも火よちるりあや—も池田炭 常久  
むらうてもよまこのことんれ者か日  
松風乃ききたちむおくりうま 西重  
ききとそ誰うゆ—れ鞠野申 親之  
か風いこの本キそ乃きさか 幸和  
ききんぬ乃めい志ひんちんぬぬぬ日  
せじいん—よあしんひんぬぬぬぬ日  
きれ申—はらうていひぬぬぬぬぬ日

咳れ—て志いんぬぬや萩れぬ 親を  
とく座れぬるまも向—光乃遊 日  
歎乃か—らひ是そ戻—ら日  
あはひんぬぬ—はらして

そのはらぬより石やお外川 村  
ききんぬぬあよありんぬぬぬぬぬ日  
ききんぬぬ川曆とあして—はらぬぬ日  
おのく白き神楽しあのけきやうか 堂一

141



句數之事

作志子知 二百三十五句

系之位

自德 二百又五可 三十八 良言 三十五

親重 二百 長者 三十三 忠海 二十二

幸和 二百 重於 百五十四 宗富 五十五

宗和 五十四 正迹 五十四 成重 四十八

若久 三十八 良德 五十四 正信 十六

|    |     |    |     |    |    |
|----|-----|----|-----|----|----|
| 可勝 | 一   | 玄利 | 二   | 宗二 | 一  |
| 宗祐 | 十八  | 松若 | 六   | 道成 | 一  |
| 教正 | 二十  | 畫道 | 七   | 重德 | 十五 |
| 邦子 | 二十  | 三正 | 二十五 | 玄竹 | 一  |
| 長運 | 二十  | 家次 | 四   | 重次 | 十一 |
| 政公 | 二十三 | 常久 | 十   | 松花 | 一  |
| 真室 | 二   | 政長 | 三   | 宗味 | 一  |

|    |    |    |    |    |     |
|----|----|----|----|----|-----|
| 叙之 | 三  | 正重 | 十一 | 政正 | 十七  |
| 市成 | 十二 | 市時 | 九  | 光政 | 一   |
| 教榮 | 三  | 教光 | 三  | 尚正 | 二十五 |
| 圭跡 | 三  | 正德 | 一  | 友善 | 三   |
| 政順 | 又  | 照是 | 十五 | 良昂 | 六   |
| 永重 | 六  | 重次 | 二  | 重久 | 二   |
| 政純 | 二  | 常若 | 一  | 常瑞 | 二   |
| 時久 | 二  | 宗壽 | 十七 | 家重 | 十一  |

|     |     |     |
|-----|-----|-----|
| 常之一 | 了九一 | 时伸二 |
| 了佐十 | 定门又 | 字行一 |
| 山尹又 | 光章六 | 吉厚六 |
| 知款九 | 重流三 | 师款二 |
| 永杰又 | 宗是一 | 宗珠一 |
| の猪一 | 厚定一 | 厚成二 |
| 重改三 | 定之六 | 助重一 |
| 之改二 | 改偏又 | 孫正三 |

|       |     |     |
|-------|-----|-----|
| 善益又   | 政昌七 | 永流六 |
| 休音二十七 | 之家四 | 利房四 |
| 了俱一   | 徐闲二 | 敏策一 |
| 仰正二   | 友甫一 | 荣智一 |
| 荣甫一   | 元知一 | 道有  |
| 字其    | 用以  | 重将二 |
| 惟真三   | 行隆一 | 宗有  |
| 重光十   | 草堂一 | 元俊一 |

政重十七 長継一 西重一  
 俊英一 正章七 利洗一  
 宗俊又 西武二 堅信三  
 常陸一 良成一 安利三  
 是吉二 重正一 由之一  
 冬家一 一村百 兼我一

棟之住

宗恕四 宗友二 子一 道職三

宗年三 久甫一 可花一  
 志利一 武吉二 成安九  
 文宣一 吉次二 一定二  
 安重一 無之三 貞継十五  
 一正十七 一之三 長之一  
 玄佐一

大坂之住

休甫十五

紀伊西之臣

宗明二十 為三一

伊勢山田之臣

貞行二 利隆十六 孝昭九

山友八 光尊六 文性八

弘光三 盛隆四 末武一

武清二 貞渡一 末祐三

正徳二 宗仁四 盛彦四

不束四 廣道三 為松一

南原二 文定二 元郷二

留沃四 益克二 正利三

冬水一 武留二 元性一

千世一 中若一 清親四

感常一 氏久一 惟玉一

玄心一 貞成一 祐傳一

末良一 易勝一 常利一

|     |     |     |     |     |     |     |      |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|
| 無嘉一 | 未克一 | 正秋一 | 正繼一 | 良政一 | 近周二 | 正變一 | 氏持一  |
| 吉久一 | 長純一 | 文英一 | 永氏一 | 正吉一 | 長昌二 | 正成一 | 正次二  |
| 威一六 | 正政三 | 川權一 | 正城一 | 水陸一 | 正亥一 | 正家一 | 正一二十 |

|     |     |     |     |     |     |     |     |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 能康一 | 滿候一 | 初心一 | 常好一 | 文章一 | 幸光一 | 未海一 | 光貞二 |
| 氏者二 | 光香一 | 未正一 | 覺玄一 | 常獨一 | 常慶二 | 道的一 | 正次二 |
| 者長一 | 辰亥一 | 家久二 | 威親三 | 正滿一 | 吉貞二 | 貞光二 | 未長一 |

清一三 行一 一 便一 一

奇一一 忽一二 招一一

建一二 正京一 未建一

昔商一 德一 武元一

江戸人之住

徳元七十七 惟雪二 友重一

去札七 葉正二

因幡人之住

函松三 一成一

寛永十酉曆十一月一日

用板之

丁  
九  
八

昭和十二年一月廿七日 字了

頼原正心 書字在 上 治之 存今寸

重  
乾  
142

後  
宮  
氏





